

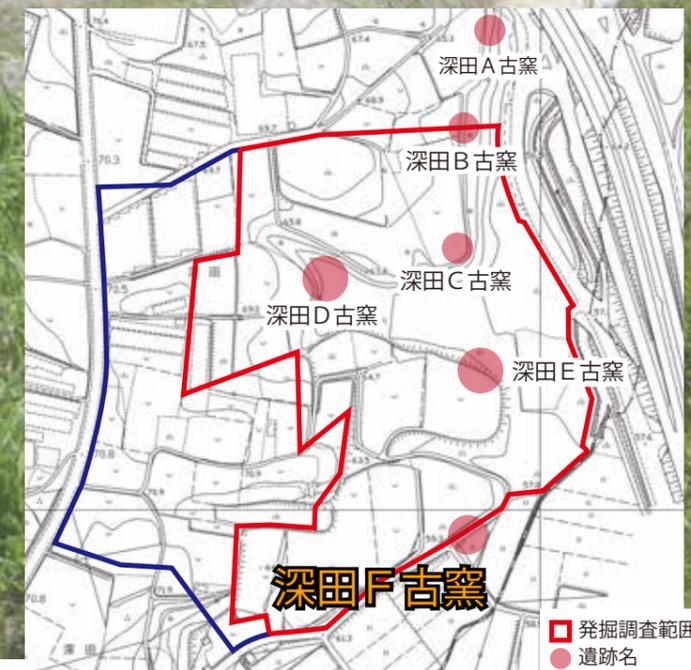
深田F古窯発掘調査現地説明会

2019.9.15

現在、工業団地開発範囲に含まれる深田B～F古窯の発掘調査を順次行っています。今回は、6月から現在まで調査を行っている深田F古窯に関して報告します。

深田古窯は、静岡県湖西市から豊橋市にかけて広がる湖西古窯跡群に属します。湖西古窯跡群では、6～9世紀ころに須恵器の生産が行われていました。現在約370基の窯跡が確認されており、豊橋市側だけでも約70基に及びます。作られた製品は、東は関東・東北、西は関西まで広く流通しており、各地の遺跡で出土します。

今回の調査では、計8基の窯跡が見つかりました。おおむね7世紀末から8世紀初めごろの須恵器が出土していますが、SY-6では8世紀後半の須恵器が出土しており、1基だけ時期が異なります。今回見つかった窯跡は、現代の造成や道路の敷設により大きく削平されており、窯跡の規模などが明確ではありません。しかし、床下の構造や壁の補修の痕跡などが観察できたり、完形に近い形の須恵器が多く出土するなどの成果が得られています。



0 (S=1/100) 4m